

# 生活者視点でつなぐ持続可能な未来実現へ

## 一般社団法人日本ヒーブ協議会

### 九州支部長 難波 裕扶子

新年明けましておめでとうございます。令和6年の新春を迎えるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。

旧年は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで、外出機会の復活やインバウンド需要の拡大ほか、各地でのイベントが再開されるなど個人消費を喚起する動きが活発化し、経済活動が正常化の方向へ徐々に進む明るい動きとなりました。一方で、全般的な物価高やエネルギーの高騰が続く中、賃金上昇が追いつけず、普段の生活に大きな影響を及ぼしています。また、海外情勢の緊迫度も増しているだけでなく、地球温暖化に伴う気候変動や異常気象、台風や地震といった災害など、予測が困難な事象が次々と起こっています。

このような VUCA 時代だからこそ、私た

ち九州支部は組織で動く個人としてまた一人の生活者として挑戦を忘れず、変化の兆しをいち早く「察知」し、進むべき方向への道筋を「見だし」、すばやく「適応」できる力を身に着けたいと考え、2023年度は「今、知りたい！」ことを主体的に学ぶ「講話会」を新たに始めました。

7月の第1回講話会では、支部長の難波裕扶子が講師を務め「社内・社会のお悩み解決ゲーム～THE SDGs Action カードゲーム『X (クロス)』を体験し社内活性化を図る～」をリアル開催で行いました。心理的安全性を大切に組織づくりを進め、関係性の質を高めていくことを体感したことで、「翌日社内での発言が増えた」と行動の変化がみられた組織もあったと聞きます。8月の第2回講話会では、「生成 AI 研修会～AI はくらしを、

企業を、地域をどう変えるのか～」というテーマを、DX やテクノロジー、イノベーションを研究する(株)第一生命経済研究所の柏村祐主席研究員よりご教授いただき、ChatGPT に任せることで人間はもっと人間にしかできない創造的な仕事に時間をさけるようになるということを実感することで、各自が ChatGPT を活かした仕事をイメージできる貴重な機会となりました。10月には講話会の企画を拡大して東京本部で公開講演会を行い、講師としてお迎えした料理研究家の浜内千波さんに、「家庭と企業と地球はつながっている～生活者として、企業人として、大切な食の意識～」というテーマのもと健康経営からフードロス問題、企業の商品・メニューの考え方、食品の栄養素についてなど幅広いお話を、ご自身の体験談などを交えて分かりやすくお話しいただきました。11月の第3回講話会は、ヒーブ会員でもあるアサヒビール株式会社 お客様相談室の林真由美さんを講師に迎え、顧客対応のノウハウをご講演いただき、身に着けたい対話力について詳しく知ることが出来ました。

回を重ねるごとに会員同士の交流も自然と図られ、ヒーブ協議会の存在意義や価値を改めて感じ誇りに思い、皆さまに感謝した次第

です。

この一年が皆様方にとりまして、穏やかで、平安なものとなりますことを心よりお祈り申し上げます。私からの新年のご挨拶といたします。